

(学年) 第 1 学年, (教科・科目) 芸術・音楽 I

個別学習

(単元) 自己のイメージをもって創意工夫を生かした旋律を創作表現する

(本時のねらい)

第 2 時の授業より行う旋律を創作する前段階として, 生徒 1 人 1 台端末を用いて楽譜を書く授業を行う。表したいイメージに関わらせて作曲をするということ, 作品を記録する方法の 1 つとして楽譜を書くということを, より手軽で身近に感じてもらうために簡単なメロディラインの創作を行い, 披露の場面として, 授業で取り組んでいる耳トレーニングの聴き取りの活動と兼ねて行う。

(ICT 活用方法)

自分が創作したものを手軽にアウトプットできる手段として, 生徒端末や個人所有のスマートフォンなどの ICT 機器を使った方法を説明する。耳トレーニングにおいては, 従来は紙媒体を用いて取り組んでいたが, 第 2 時の授業より行う作曲の授業につなげるため, 生徒端末を使用して耳トレーニングを行う。①授業支援アプリのフォルダに五線譜をアップロードし, 生徒端末での基本的な書き方を練習する。②個々に, 簡単なメロディラインの創作を行い, 五線譜に記入する。③ピアノのソフトを使って, 創作したメロディラインを耳トレーニングの問題として演奏する。電子黒板に教員端末の画面を映しながら説明する。

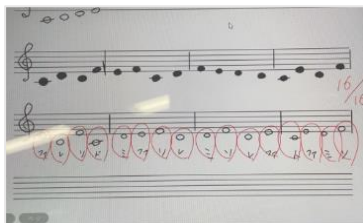
(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	ICT 活用方法
導入 5 分	・電子黒板に注目し, 本時の説明を聞く。	・題材の説明と本時の活動内容を伝える。	
展開① 10 分	・音符や記号など, 手書きで練習して, 生徒端末に書くことの練習を行う。 ・練習後に, 簡単なメロディラインの創作を行う。	・生徒端末で音符や記号などの基本的な書き方を練習するように指示する。 ・練習ができれば, 単純なメロディラインの創作を行うように指示する。	・生徒端末での, 音符や記号などの基本的な書き方を練習する。 ・簡単なメロディラインの創作を行い, 五線譜に記入し完成させる。

20701 音楽 I\_1\_302 個別\_自己のイメージをもって創意工夫を生かした旋律を創作表現する

<p>展開② 25分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒端末のピアノのソフトを使用して演奏する。</li> <li>発表者が演奏するメロディを聴き取り、生徒端末の五線譜に回答を書く。(全員)</li> <li>答え合わせを行い、点数の記入をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表者5名に、ピアノのソフトを使って、創作したメロディを耳トレーニングの問題として演奏してもらうように指示する。</li> <li>普段行っている耳トレーニングを生徒端末で取り組むように指示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピアノのソフトを使って、創作したメロディラインを耳トレーニングの問題として演奏する。</li> <li>発表者が演奏するメロディを聴き取り、生徒端末の五線譜に回答を書く。(全員)</li> <li>答え合わせを行い、点数の記入をする。</li> </ul>
<p>まとめ 5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習を振り返り、次時の授業内容を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習の振り返りと次時の授業内容を伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「おんぷノート」について検索して提示する。</li> </ul>

(授業の様子)



授業支援アプリにアップロードした五線譜



ピアノのソフトを使って演奏



授業の様子 (全体)

(生徒の反応と課題, 改善を要する点)

生徒端末を使って楽譜を書くことが初めてであったため、書くことに苦労している生徒もいたが、書き方の工夫をしたり色々な機能を使って書いたりしながら、ほとんどの生徒が楽しみながら活動に取り組んでいた。耳トレーニングの活動は、授業の導入で頻繁に取り組んでいるためマンネリ化していたが、今回生徒端末を使用したことで、また違った感覚で取り組むことができているように感じた。

改善点として、メロディの創作時に、創ってはみたものの想像と実際の音が合っているのかどうか分からなかった、という生徒が数名いたため、実際に鍵盤で音を出しながら創作できるように改善していきたいと思う。